

令和8年度



幼稚園だより6月号

文京区立小日向台町幼稚園

だって年長だもん

副園長 川畑 優

園庭のアジサイが咲き、梅雨の訪れを感じます。子どもたちは、自分の学級・学年での生活に慣れ、好きな遊びやみんなでやる活動を楽しめるようになってきました。今月号では、子どもたちの育ちを感じたエピソードを紹介いたします。

小日向台町小学校の校長先生が幼稚園にいらしたときの事です。ある子が、元気に「こんにちは」と校長先生に挨拶をすると、校長先生は「こんにちは。挨拶ができて偉いね。さすが小日台の子だ」と仰いました。するとその子は、「だって年長だもん」と誇らしげに答えていました。

また、別の日、当番の子が主事室にお茶が入ったヤカンを取りに来たときの事。その子は「ヤカンを戻しに来ました」と言い、少し間を置いてから「ヤカンを戻しに来ました」ともう一度大きな声で言いました。私は主事室に誰もいないのかと思って近付くと、その子が「(主事さんが)二人居たから、二人に(一回ずつ)言ったんだよ」と教えてくれました。主事室からは「ご苦労様」と、労いの言葉が聞こえてきました。

どちらの場面でも私は、子どもの育ちを感じ、じんわりと嬉しさが込み上げてきました。身近な人に自分から挨拶をしたり、毎日みんなのために当番活動に取り組んだりすることができるようになるためには、日々の園生活の積み重ねが大切です。上記の年長児の姿は、年中児と年少児にとってモデルとなっていくことでしょう。

今年度は、お子さんの育ちを保護者の皆様と共有できるよう、細やかに情報発信を行っていきます。6月からはプール遊び等、暑い時期ならではの遊びが始まります。ぜひ、写真掲示やホームページ・Xの記事をご家族でご覧いただき、お子さんと一緒に遊びや園での生活の一端を振り返ってみてください。



一日動物村の年長児と年中児の様子です。
「モルモットは、優しく撫でてね」
「そうそう、上手だよ」と話していました。



当番の子は「ヤカンを取りに来ました」「お茶ありがとうございました」と、元気に主事室に声をかけてくれます。